



GREETING ごあいさつ

平素は、森本たかしNEWSをご愛読頂き、ありがとうございます。

本年1月28日に埼玉県八潮市で、下水道管路の破損起因による道路陥没事故が発生しました。仮復旧に3か月程度かかる復旧工事が必要な事案であり、国から緊急点検要請が出ています。市の下水道事業の現状と課題についてご報告します。

新風コスモスの会 森本 隆

実現しました!

議会のICT推進リーダーとして、市民にわかりやすい議会を推進するために、議場設備の更新時期に併せて、議場の映像音響システムを新しくしました。



オンライン配信映像
(議員名が入りました)



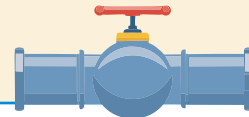
オンライン配信資料



議場65インチモニター

下水道事業を考える

府市の責任分担と課題を見える化する。



現状認識

- ①市の下水道事業は、3町合併時(2007年)前からの運営を引き継いでおり、木津地域は京都府木津川市上流浄化センター、加茂地域は加茂浄化センター、山城地域は京都府洛南浄化センターで汚水処理されている。
- ②木津地域においては、木津川上流浄化センター、相楽幹線、山田川幹線、相楽中継ポンプ場(西部交流会館)は府が管理、京都府流域下水道に接続する管路は市が管理している。(下図参照)

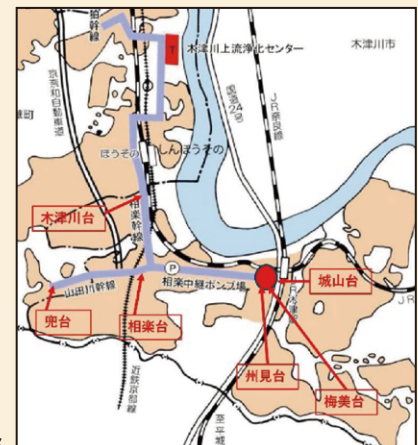
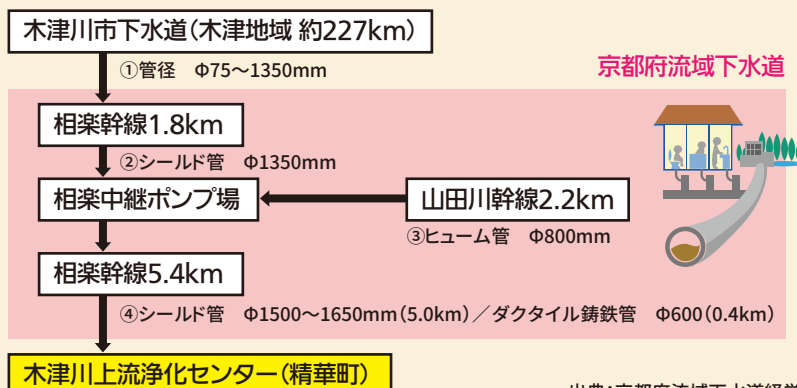
現狀課題

- ①耐震化率の対象となっている管路はその多くが下水道施設の耐震基準が見直しされる平成9年以前に建設された管路。市では、更新時期を迎える管路がないので、耐震化率26.4%と低い。
- ②下水道管路の更新は、多額の費用がかかる。木津地域で総延長約227kmある。400ミリの管路を、一般的な管路更生工法でやると、1km当たり約3億円費用が必要。財政的な負担が大きい。
- ③市として、管路更新が未実施のため、職員の知識・経験不足。

市への提案

- ①市内の下水道管路の全てを、点検及び更新できる体制を構築すること。(府の管理設備含めて)
②上下水道のインフラ整備に多額の費用がかかることを認識して、インフラのオーナーである市民の声を聞いて、インフラマネージメントの見える化を実施すること。

〔木津地域の下水道説明図〕



出典：京都府流域下水道経営戦略

3月議会での質問 (一般質問)

質問 1 下水道管路起因による道路陥没は

Q 森本隆 緊急点検結果は。

A 上下水道部長 市が管理する管路においては、幹線管路のうち、腐食のおそれの大きい管路や、軌道や河川を横断する管路、緊急輸送路に埋設される管路を主体に、令和3年度からマンホールの目視調査や専用自走車による管路内のテレビカメラ調査を行っている。

流域下水道管路においては、管理者である府が年次計画を立てて点検・調査を実施している。

現在のところ、どちらの管路についても、道路陥没や緊急対応が必要な腐食等は確認されていない。

Q 森本隆 市内では、上下水道起因による道路陥没について、過去何件発生しているか。

質問 2 下水道事業の課題は

Q 森本隆 下水道事業の耐震化が低い理由と課題は。

A 上下水道部長 耐震化率の対象となっている管路は、緊急輸送路に埋設された幹線管路などの重要な管路であり、その多くが下水道施設の耐震基準が見直しされる平成9年以前に建設された管路である。

管路の耐震化は当該管路の更新に合わせて行う計画だが、市では、更新時期を迎えた管路がまだないことから、耐震化率が低くなっている。

下水道事業の課題は、施設の老朽化対策で

あり、府は既に流域下水道の更新事業に取り組んでいる。

市においても、現在、加茂浄化センターの更新事業に取り組んでおり、今後は管路の更新にも取り組んでいく。

Q 森本隆 耐震化・老朽化対策の方法と費用は。

A 上下水道部長 管の大きさが400ミリの管を、一般的な管路更生工法でやると、大体1キロ当たり約3億円の費用と試算している。

質問 3 下水道事業の費用負担は

Q 森本隆 市民にとって大事なインフラ、下水道事業の取り組みは。

A 市長 下水道については、耐用年数は50年がベースである。まだ更新時期ではないが、その更新費用を、長期的な部分をならしてみると、毎年6億円近い更新費用が要するという試算である。

管路の前に取水の施設や浄水場、下水道処理場、また防災の拠点につながるような施設を集中的にやる。今後、5年間の計画は持っている。

質問 4 国が推奨する「立地適正化計画」の策定は

Q 森本隆 市が立地適正化計画を策定しない理由は。

A 建設部長 国としては、都市郊外部に拡散した市街地をコンパクト化して、都市の持続性を確保する「集約型都市構造化」への本格的展開に大きく転換するための都市政策を行うことを目的とした「立地適正化計画」の策定を推奨している。

市発足後人口増加していたので、計画を策定するタイミングを見定めていた。しかし、市においても、今後の人口減少社会を

見据えたまちづくりを行う必要があり、前向きに調査・研究を進めてまいりたいと考えている。

質問 5 「公共施設等総合管理計画」等の進捗は

Q 森本隆 計画の進捗と課題は。

A 総務部長 第1期の計画期間における8%の削減目標に対して、令和6年4月1日現在では、削減割合としては1.9%である。

課題は、計画策定時には想定していなかった城山台小学校の校舎や第2体育館の新築など城山台地域の児童・生徒急増対策に加えて、乳幼児の増加による保育所民営化等実施計画の延伸など、社会情勢の変化や利用者ニーズへの対応を行ったことにより、削減目標に対する進捗が遅れている。

Q 森本隆 上下水道のインフラ整備に多くの費用がかかるということが明確になった現在、身の丈に合った公共施設管理計画を作成すべきでは。

A 市長 3町合併して18年たった今、コンパクトシティの計画を進めていきたい。公共施設についても、令和8年度見直しの予定なので、身の丈に合ったという指摘を考えていきたい。

高の原幼稚園跡地の活用についても、サウディング、地元の皆さんの意見を聞いて課題を解決していきたい。

管路更生工法とは

道路を掘らない、下水を止めないで硬質塩化ビニールを老朽管の内側に巻きつけ更生管をつくり、既設管と一体化して、管路をリニューアルする工法。

サウディングとは

市有地などの活用方法について公募により民間事業者から広く意見や提案を求め、事業への有用な意見やアイデアを収集する方法。

編集後記

相楽中部消防組合本部新築工事、順調に工事が進んでいます。予定通り、令和7年度末に竣工予定です。



▲相楽中部消防組合本部 新築工事 現場視察



森本 隆 プロフィール

無所属 新風コスモスの会所属

1959年 大阪府生まれ／1997年から兜台7丁目在住
大阪府立茨木高等学校卒業／京都工芸繊維大学 機械工学科卒業
元パナソニック(株)社員【勤続32年・2015年退職】／木津川市議会議員(2015年～)

議会役歴 市議会議員(2021年～2023年)／議会運営委員会 委員長(2019年～2021年)

主な活動履歴 ●兜台7丁目自治会長(2期) ●青少年育成委員(4年)

●東日本大震災「はじめの一歩コンサート」を主催
(2011年から5回実施: 於 高の原)

【家族】妻と一男一女 【趣味】写真撮影、旅行、ゴルフ

https://takashi-supportclub.net/

morimoto077473@clock.ocn.ne.jp

HPリニューアル

